

フレーザー幼稚園の子どもの一日(幼稚園が初めてのこども)

8:00~8:30 預かり保育(必要に応じて 8:00 前の預かり有り)

8:30~9:00 登園時間

自分の気付いたこと、やってみたい事を見つけてやってみる一日の始まりです。

登園したら

靴を靴箱に入れて、鞆・帽子・ハンドタオルをかけて、上靴をはいて・・・

(幼稚園が初めてのこども)

入園当初、保護者から離れた不安を泣いたり大きな声を上げたり、物に当たったり等で表わすこどもを、教職員全員が「泣きたいくらいおとうさん、おかあさんが大好きなんだよね。家がいいよね」と不安を出せるこどもをしっかりと受け入れます。

「泣きたいあなたでいいよ」「不安でいいよ」「初めてだからドキドキするよね」・・・と受け入れてもらっている時からこどもはよく観察しています。

「初めての場所はどんどこか・・・よく見て、耳をすましていると気がつくから大丈夫。」と、不安な気持ちを受け止めて、待ってくれる教師の眼差しがこどもの「自分でいい」自己肯定感を育みます。

こどもが「この場所は安心できる場所」と思えるようになると、視野が広がって見ているうちに、好奇心が刺激され「やってみたい」が出てきます。

「気がついたことがあったの、大切なことみつけたね。やってみましょうか」この繰り返しの中で「自分の気付きから生まれる満足感・小さな成功体験」を繰り返し次の気付きを見つけていきます。

幼児期は自発的な活動(遊び)の中に主体的な学びがあるので、遊びを通してこども自らが成長できるように、やってみたい事を見つけて取り組む時間を充分にとり、豊かに遊べる環境・空間作りを大切になります。

自らやってみたくなくなったこと(自発的な活動)はこどもを集中させ、繰り返し遊びたくなります。遊んでいる内に自ら持っている力が次々に引き出され夢中になり、少し背伸びをした自分になりたくて努力します。こどもは嬉しい時、おもしろかったり楽しくなってくると共感してくれる仲間を求め誰かと喜びを分かち合いたくなって共感友だちと共に遊ぶ経験を通して自立性・集中力・想像力・創造力・忍耐力を養い、協力することや連帯することの喜びを味わい、人生を切り抜く力となって大きく実を結んでいきます。

この体験を保障するには、多くの時間が必要になります。こどもの活動・姿によってその日の環境・スケジュールは大きく変わっていきます。

実体験が少ない幼児期は、上手くいかないことや失敗することが沢山あります。体験が少ないだけなので、繰り返せる十分な時間が必要になります。

この時間の中で、こどもは成長したい自分に向かってチャレンジを繰り返します。

同じように見える繰り返しの中でこどもはそれぞれに工夫をしながら体験しています。

上手くいかないことや失敗・間違いに立ち止まらないように、いまくいかないことや間違い

があることに「よく気付いたね」「気付いたことやってみる」と、その子なりの成功体験ができる力があることを信じて、応援をしたり援助します。

間違いも失敗も、「新しい世界が開かれるチャンス」として取り組み、自分の世界を広げていく力が育まれるようにしています。

幼稚園の室内外にある環境全て、幼児期のこどもに必要な『こども自らが関わりたくなる自発的・主体的な遊び』を考慮して考えられています。

この中で、自ら持っている力を引き出して、自分に合った成長をしていきます。

室内で自発的遊びを促す遊具

- ・日本(和久ブロック・和久シリーズの色板・ビーズ・くむくむ等)
- ・日本の伝承遊び(独楽・あやとり・折り紙・粘土・お手玉・カルタ他)
- ・ヨーロッパの積み木(ネフ社のブロック)レンガ積み木・トーテム等
- ・日本のこま・ヨーロッパの独楽
- ・国内外のパズル・ドールハウス
- ・カルタ・ヨーロッパのカードゲーム(誰もがチャンスがあれば勝てる・力を合わせることでおもしろくなるもの・友だちが嬉しいと自分も嬉しくなるゲーム等している内に知らないうちに記憶する工夫する力等が考えられたゲーム)
- ・ヨーロッパ・日本のおままごと
- ・絵本・図鑑・専門書
- ・描画・・・絵の具・クレヨン他(こどもが表現したくなったとき・時には友だちと一緒にする事もあります。大切なのはこども自身の心が決めた時)
- ・制作(自然物を使って・空き箱を使って・羊毛・指編み・リリヤン・折り紙・ユニット折り紙(こどもが表現したくなったら・やってみたくなったらいつでも準備します)
- ・楽器遊び(ボンゴ・タンバリン・トライアングル・鈴・たいこ・部屋にあるピアノ(4才以降)等)
- ・レゴ・大型積み木・トーテム等木のおもちゃ
- ・おままごと・ぬいぐるみ・腕ぐるみ等

他 名もない遊び

*和久ブロックは「和久洋三」で検索していただくと内容が分かります。

屋外で自発的遊びを促す遊具・環境

- ・安田式(ジャングラミング・雲梯・鉄棒(可動式)・平均台(可動式)・ブランコ)こどもがそれぞれの能力に合わせてやってみたくなる遊具。
- ・縄跳び・ゴム跳び他
- ・虫探し(20年以上かけて園庭に雑草が生えて色々な虫が自然に増えるようにした)虫と遊ぶ
- ・色水遊び(あわたて器も使ったり、すり鉢とすりこぎを使ったり等)
- ・石けん遊び (あわたて器も使って・シャボン玉作り・泡遊び等)

- ・さら粉集め・お団子作り他
- ・といを使って水路作り等
- ・ボール(サッカー・転がしドッジ・玉入れ・ボール落とし等)
- ・はじめの一步・木の中のリス・しっぽとり・鬼ごっこ等友だちとルールを守りながらの遊び・友だちとルールを作ったの遊び
- ・水遊び・砂遊び・たらいやといを使って
- ・ムカゴ集め・ゆずを使って他
- ・サクランボ・ブルーベリー・ゆすら梅等の食べれる植物や野菜
他 名もない遊び

*安田式遊具は「安田式体育遊び研究所」「安田祐治」で検索ください。

遊戯室

- ・和久積み木で遊ぶ・ドーム作り・ビーズ遊び他
- ・リズム遊び
- ・ゲーム遊び(「みんなが座れる椅子はどんどん少なくなる」)
- ・身体を使ってといで遊ぶ・ボール遊び・マット・エヤーマット・鉄棒・平均台他で遊ぶ
- ・自分の力を試したり、友だちや色々な年齢の人と一緒にやってみる楽しさや面白さに
出会う遊び・体験 他

室内・屋外・遊戯室での活動は同じ年齢の中で育つことを大切にしたいときは同年齢のみの時もあります。こどもは友だちの姿をよく見て、やってみたくくなります。同年齢だけでなく異年齢と一緒に空間の中でのいると、こどもが持っている力が引き出され憧れの姿に向かって力を発揮します。それぞれの時期・段階を踏まえて活動します。

*自分のやってみたい事をできないときがあっても自分が受け入れてもらっているという安心感が、自分以外の仲間がどんな気持ちかを自分で想像したり気付く姿があります。年少児でも「気がついた自分を大切にしましょうね。せつかく自分で気がついたんですものね。大切にしないのはもったいないかな？」と声をかけると気付いた自分を大切二しようとするこどもの姿があります。日常的に間違いも失敗も気付いている自分を大切にすることを大切にしようねと声をかけています。まだまだ未熟なところが沢山ある年齢でこれからも起こってくる間違いや失敗をした時ちゃんと気付いているこどもがあるので向き合えるように支えます。うまくいかないことと向き合う勇気があれば次は「どうしたらいいか」を見つけることができるので、「見つけたことをやってみようね」というと自分で「こうしたい自分」を自分で決めて行っています。何度も間違ふことはあってもすこしづつ自分をコントロール姿が見られます。こどもは真面目で誠実です。気がついたことをやってみると心地よい自分に出会い、小さな成功体験に繋がっています。

小さな成功体験は自分を誇らしく思えます。自分を大切にできることは友だちも大切に考えることができることに繋がります。

11 時頃 片付け

(時期によって時間は変動。その日のこどもの活動の様子・こどもの話し合い等)
クラスあるいは遊戯室での活動

- ・礼拝
- ・話し合い(生活・季節・社会・その日の出来事)
- ・リズム遊び(わらべうた・リズム遊び他)
- ・歌
- ・絵本(毎日必ず絵本の読み聞かせを行っています)
- ・ルールを守ってゲーム遊び

*椅子に座るのも、お弁当の時にどこに座るかも自分で決めます。こどもは自分で決めたいと思っています。満3才も3才もトラブルは殆ど起きることがありません。何回も自分で選べる時があるので、次にしようとコントロールする姿があります。自分の座るところは必ずあることが分かっているので空いている席を見つけています。見つからない人がいたら「ここあいてるよ」と教えてあげるこどももいます。手を引いて椅子に座るように勧めるこどももいます。誰か一人でもいなくなったり、上手く行かないで困っていることは自分のことのように気になるのです。みんなが心地よい空間は自分も心地よいことを感じるこどもは、みんながいてみんなの中に自分がいることが嬉しい連帯する喜びを味わって過ごします。

年長になると、クラス全体の中で自分ができる役割を見つけたり、幼稚園全体の中で自分が果たす役割を自分で見つけて果たしてみると、心地よい自分に出会い自分を誇らしく感じる年長の姿があります。この姿を年中・年少のこどもはよく見て自分も年長児のようになりたいと憧れています。

この力は、社会の中で自分の果たす役割を見つけて貢献する力を育んでいきます。

12:30~ 昼食

「きょうはどこで食べる?」「へや」「庭」「ろうか」「遊戯室」・・・食べれるところ色々。

- ・昼食が終わり次第こどものやってみたい遊びを続けたり、新たに始めたり等

片付け

降園の準備

14 : 30 降園 さようなら

「明日も遊ぼうね」「遊ぼうね」「明日ね!」・・・保護者の方の迎えで帰ります。

- ・こどもがこどもの中で育っていく時間は大切になってくるので、登園・降園を保護者の方のご協力をお願いしています。朝 8 時 30 分から 9 時に登園したこどもは 14 時 30 分まで自分のやってみたい事を試したり、こどもの中で育つことができます。降園時には兄・姉の小学校の下校に重なったり、弟・妹の様子で迎えの時間が前後することがありますので降園時間 30 分間は預かり保育時間ではなく教師と一緒に保護者の迎えを待ちます。

降園後

こどもが安心して遊べる公園が少なくなってきたので保護者の責任の下、保育後の園庭を開放しています。保護者の責任の下、園庭で遊んで帰るこども、遊ばないこどもと色々です。

迎えと一緒に来た兄弟姉妹も遊べます。

入園当初は親子共に初めての幼稚園は不安が多くあるので、こどもの安全安心をそれぞれの年齢で親子が遊べるよう工夫しています。

*保育時間

月曜日から金曜日は 14 時 30 分

第 2・第 4 水曜日は 12 時

(但し年度始めは園生活になれるため、この限りではありません。園の行事によってもこの限りではありません)

*預かり保育

月曜日から金曜日 7 時 30 分~8 時 30 分

教育時間終了 30 分後から 17 時 30 分

長期休暇中

8 時 30 分~17 時

(但し教師研修会等で行えない日程もあります)